

開催概要

(1) 日 時: 令和8年2月4日(水) 14:30~16:30

(2) 会 場: 庄内総合支庁水産振興課 大会議室

(3) 出席者: 【海面漁業関係者(酒田部会委員)】6名
【有識者】(Web)

・ (国研)水産研究・教育機構 鈴木研究主幹

・ (一社)全国水産技術協会 新井研究開発部長

【行政関係者(県・酒田市)】7名

【オブザーバー】遊佐町産業課長



(4) 説 明: 本県の取組状況及び当検討会議について

(5) 議 事

① 酒田市沖における漁業影響調査(海面漁業)

「山形県酒田市沖において実施する漁業影響調査の考え方(案)」について意見交換

② 酒田市沖における漁業協調策・振興策(海面漁業)

「海面漁業の協調策・振興策として想定される取組[イメージ]たたき台」について意見交換

議事① 酒田市沖における漁業影響調査（海面漁業）

検討メンバーからの主な意見

- 調査期間を風車撤去までの30年間としている海域もある。酒田市沖では、漁業者の意見を確認した上で、調査期間を判断する形にしてほしい。
- 洋上風車による影響を科学的に証明することは無理だと思う。
「漁業者の意見等も改めて確認する」旨を強調してもらえると安心できる。
- 遊佐町沖の海底地盤調査期間中、水揚げが大きく減少した。「着工2年前から」ではなく、事業者による海底地盤調査の影響も把握できる形で漁業影響調査を実施すべき。
- 実際の漁業操業で使われているのと同じ漁具・漁法による調査でなければ、納得できない。

有識者助言

【(一社)全国水産技術協会 新井研究開発部長】

- 実際に調査する際は、漁業者の懸念事項を払拭する調査が必要だと考える。
- 漁場面積の縮小の情報源は、県漁協で把握している情報を有効活用することが重要。
- 流況等に関しては、人工衛星等による広域情報も併せて活用すると良い。
- 長期間での風車建設後のモニタリングが重要。風車による影響を判別するため、建設前に以下のような懸念事項のデータを取得しておくことが重要。
 - ・生物による底質の変化、潮流、風況、風波、水中音、振動、送電ケーブルによる電磁場の影響

【(国研)水産研究・教育機構 鈴木研究主幹】

- 風車建設前後のデータ取得が重要。海底地盤調査の段階から漁業影響調査を行えば事前データを取得できるため、海底地盤調査の項目に漁業影響調査を加えると良い。
事後調査は想定外の事態への対応を目的として、モニタリングを行う形になる。

議事② 酒田市沖における漁業協調策・振興策（海面漁業）

検討内容（漁業協調策・振興策の基本方針）

- 風車に蝟集した魚種を代替漁具漁法とスマート漁業により積極的・効率的に漁獲し、販路開拓・拡大及びブランド化による魚価向上により漁業者の収入増を図るとともに、風車周辺での操業における安全対策として、高性能レーダー等の整備や安全操業システム構築に加え、必要な漁業調整を行う事で漁業者の不安をやわらげる。
- 酒田港水産エリア再編整備により、県漁協施設をリニューアルして高度な衛生管理環境を整備し、安心・安全で高品質な水産物の出荷による高付加価値化を図るとともに、県漁協施設を核とした地域の賑わいも生みだし、水産物の消費を拡大させる。また、県内外の漁船が使いやすい酒田港整備を行うことで、調査・工事への漁船の積極的活用につなげる。
- 原則として事業者が出捐する基金を活用して協調策・振興策にも取り組むことにより、経営体あたりの海面漁業生産額年間1,000万円を達成することで、漁業者及び漁協の経営の継続と安定化を目指し、水揚げ量のみならず頼らない水産業の成長産業化につなげる。

検討メンバーからの主な意見

- 事故発生時の搜索対応に係る補助も検討してほしい。
- 風車に蝟集した魚を捕れるよう（風車に近づけるよう）にしてほしい。
- 代替漁法とあるが、簡単な話ではない。
- 目標（年間1千万円）実現への道筋をイメージできるようにすべき。

有識者助言

- 【（国研）水産研究・教育機構 鈴木研究主幹】
 - 協調策に関して、風車にどこまで近づけるかは非常に重要。風車になるべく近づけるよう
に進めていくのが良いと思う。
- 【（一社）全国水産技術協会 新井研究開発部長】
 - 既存漁業への影響を最小限にすることが前提。近年、漁場変化が激しいので、状況に
応じて方向性を見直すなど、柔軟に対応できるように進めてほしい。